



ほこっと

TEL 0598-38-1133

<http://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>

TEL 0598-38-1133

スイッチョの歌

原田 直友

だまって
だまって
おかあさんが
自分の話をやめていった
かやのすみで
虫が鳴きはじめてのた

みんなそっと
首をひねって
そっちを向いた
今年はじめてしみじみ聞く
短いスイッチョの歌であった
おわってからも
みんなしばらく
だまっていた

『子供といっしょにゆめたい語』より

秋の夜長。自然の中の
音に耳を傾けて。

●「知る・行く・つながる。東北と熊本・大分」● キャンペーン 9/1(金)～9/28(木)

平成 23 年から三重県立図書館の呼びかけで始まった企画を、今年も復興を願って行います。これをきっかけに東北と熊本・大分に関心を寄せていただければと思います。

期間中はいろいろな資料を展示しますのでぜひご覧になってください。

- ☆ 開館時間：午前 10 時～午後 6 時まで
- ☆ 貸出期間：2 週間
- ☆ 貸出冊数：ひとり 10 冊まで

9月

■ はお休みです。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
						おはなし会
3	4	5	6	7	8	9
					おもちゃ	ほけっと
10	11	12	13	14	15	16
			平和教育展			
17	18	19	20	21	22	23
		振替			あかちゃん	ほけっと
24	25	26	27	28	29	30
			ブックスタート		館内整理	

●平和教育展 ● 9/13(水)～10/6(金)

戦後 72 年。戦争体験者の高齢化が進み、直接その体験を聴く機会が減ってきています。多気町内小中学校では、今年も子どもたちにその思いを語りつなげるための平和学習にとりくみました。その様子や感じたことなどを、各学校が展示物として発表します。ご家族で、平和の尊さについて考えてみませんか。

(主催：三重県教職員組合多気支部)

●今月のおはなし会●

どなたでも参加していただけます。

- ・9/2(土) 図書館のおはなし会〈どなたでも〉
- ・9/8(金) おはなしおもちゃ〈0・1・2歳向け〉
- ・9/9・23(土) おはなしほけっと〈低学年まで〉
- ・9/22(金) 赤ちゃんのおはなし会

時間はどれも 10:30～11:00

●ブックスタート●

町内にうまれたすべての赤ちゃんと保護者の方に絵本を手渡し、メッセージをお伝えしています。

- ・9/27(水) 10:00～

「のびのび」 たき児童館にて

とほやん
利用案内

今月のおすすめ

2017.9

『里山資本主義 ー日本経済は「安心の原理」で動く』
 瀬谷浩介 (もたに・こうすけ) NHK広島取材班
 KADOKAWA

里山資本主義

「豊かさ」を取り戻す里山資本主義。ぜひ一読を。

「里山資本主義」はお金に依存しない新しい経済のあり方だ。コストのかからない地域の資源を上手く使えば、地域の活性化にもつながる。その一例にバイオマス発電も！

「豊かさ」を取り戻す里山資本主義。ぜひ一読を。

『今森光彦の里山さんぽ図鑑』
 今森光彦 (いもり・みつひこ) 世界文化社



里山には山あいの自然がもたらす、さまざまな恩恵がたくさんある。それは人が丹精こめて世話をするからこそ実現する。未来につないでいきたい宝もの、里山。

『生け雑草』 小林南水子 (こばやし・なみこ) 柏書房



季節を感じ味わう一輪気軽に見つけた草花も、器が変わればこんな華やか。ちょっと散歩に出かけませんか。

『先生、犬にサンショウウオの搜索を頼むのですか！鳥取環境大学の森の人間動物行動学』
 小林朋道 (こばやし・ともみち) 築地書館



自然豊かな大学を舞台に起こる動物と人間をめぐる事件の数々。ヤドカリのクーちゃん貝殻争奪戦!? 子どもコウモリ空とび涙の訓練? 家族のようなまなざしで動物たちの生活行動研究レポート。

『音の記憶 技術と心をつなげる』

小川理子 (おがわ・みちこ) 文藝春秋



ピアニストと技術者の二足のわらじを見事にこなす素敵な女性。音の記憶をつなぐオーディオは、音の命をよみがえらせる再現芸術。

復活の主力として、託された彼女の使命は大きい。次の50年も輝くブランドであり続けるために... 挑戦は続く。

『きみは赤ちゃん』

川上未映子 (かわかみ・みえこ) 文藝春秋



長男がおほかに宿ってから1歳の誕生日を迎えるまでの悲喜こもごも。

35歳ではじめての出産。赤ちゃんがオニに思えるほどの試練。そのとき夫は? 作家夫婦の感動と笑いの記録。

『知的余生の方法』

渡部昇一 (わたなべ・しょういち) 新潮社



長くなつた人生の後半をどう送りますか。

作者の体験をもとに快適な余生を過ごすアドバイス。老いても学び続け向上心を持って励まされる。

『自分の番を生きるということ』

佐々木正美 (ささき・まさみ) 著 小学館
 相田みつを (あいだ・みつを) 書



精神科医の佐々木さんが仕事を通して得た人生の処方せんを、相田みつをさんの書の言葉とともに伝える。

力強く静かに書かれた作品。生きる力が湧いてくるようだ。